

III. 北陸ブロックにおける重点事項

◆『広域的連携交流・活力ある地域づくり』

①日本海国土軸の形成と太平洋側の国土軸との連携

【地域の将来の姿】

日本列島の中央に位置し、東京、名古屋、大阪の三大都市圏から 300 km圏内にあるという北陸の地理的特性を活かした地域づくりを進める。拠点都市の機能強化や地域内外との交流・連携をさらに推進し、日本海国土軸の中核圏域を形成・実現する。また太平洋側の国土軸との交流・連携を強化し、相互に補完する役割や関係を確立するとともに、東海地震、東南海・南海地震の発生等により太平洋側の機能が損なわれた時にはその機能を代替する。

さらに北陸地方に住む人々が、地域の魅力を享受できる地域づくりを行うとともに、北陸の主要都市間や市町村間の連携を強化し、国内外から訪れる人との観光をはじめとする交流を促進し活力ある地域を創造する。

②環日本海交流を始めとした国際競争力の強化

【地域の将来の姿】

日本海を挟み北東アジア諸国と対面する地理的優位性を活かすことで、世界中から人や物が集まり、多様な交流活動が展開される国際的な交流拠点圏域を形成し、北陸地方の産業の国際競争力の向上を実現する。

③中心都市等と周辺地域の連携による多自然居住地域の創造

【地域の将来の姿】

北陸各地の中核・中心都市と周辺市町村間の連携と交流を促進し、公共施設等の役割分担や広域利用等を進め、北陸全域に豊かな自然と高度な都市機能や満足度の高い生活サービスを享受できる生活圏を形成していく。

④快適な生活空間の形成や都市再生と産業活動の活性化

【地域の将来の姿】

全国的に高い評価を受けている北陸地域の居住環境を維持しつつ、さらに快適で質の高い空間づくりをすすめるとともに、市街地中心部において都市機能の高度化と美しく魅力的なまち並みや都市景観を地域が一体となって形成・再生し、魅力的で質の高い都市空間を実現していく。

さらに、都市内交通の円滑化やエネルギーの安定供給によって、生活行動や経済社会活動を活性化し、活力にあふれる北陸を実現していく。

◆『安全で安心な地域づくり』

①水害、土砂災害、地震等の自然災害の克服

【地域の将来の姿】

北陸地域は急峻な地形や脆弱な地質、冬期の豪雪や厳しい季節風による波浪、近年の異常気象等による集中豪雨、地震、火山、急流河川、津波、高潮等、自然災害要因が多く、これまで数多くの災害に襲われてきた。

平成7年1月の阪神・淡路大震災においても、広域危機管理体制の必要性が認識されたことも踏まえ、災害に備えた広域危機管理体制の充実や、地域住民と関係機関等が一体となった災害対策に取り組み、災害に対する住民の意識や関心を高めるとともに、総合的な防災対策を進め、災害が発生しにくく安全で安心して生活できる地域を実現する。

②降積雪時の生活、交通の安定性の向上

【地域の将来の姿】

雪崩等による災害や交通の途絶を解消し、冬期間においても安全・確実な交通を確保することで、日本有数の「豪雪地域・北陸」における安全・安心な暮らしを実現する。

また、雪に強い北陸独自の基準（雪国仕様）による道路やまちづくり、連携による雪対策、雪関連情報提供システムの構築などを推進し、降積雪による交通や経済活動、生活行動等への影響を最小限にとどめ、雪によるハンディキャップのない地域づくりを進める。

③すべての人が安全、快適に暮らせる生活環境の実現

【地域の将来の姿】

ユニバーサルデザインの考え方を導入し、年齢や性別、障害等の有無に関係なく、だれもが道路や施設、交通機関やまち空間等を快適かつ自由に利用できるというバリアのない北陸を目指す。特に豪雪地帯という北陸の地域特性を踏まえて、冬期の降積雪を考慮した雪対策を推進し、一年中あらゆる人に優しい北陸を実現する。

また、道路の機能や役割に応じた適正な使い方や、ITをはじめとする最新の技術等の活用によって、歩行者が安全・安心して通行でき、同時にドライバーが走行しやすい道路交通環境を整備し、交通事故が発生しにくい、安全・安心な地域を実現する。

さらに、起伏にとんだ地形や山間地の多い北陸の自然条件や、高齢化の進行といった社会課題を踏まえ、だれもが短時間の内に適切かつ必要な医療を受けられるなど、「生命」を大切に意識に込められる地域を実現する。

④海難事故の防止、テロ等に対する危機管理対策の強化

【地域の将来の姿】

東西約 500 kmに及ぶ海域、北陸特有の気象条件等を踏まえて、港湾や航路における適切な安全対策を進め、海難事故を予防しつつ、安全で安定的な運行を確保し、地域の安定した暮

らしを支援していく。

また、テロ等に対する保安体制・対策の強化として、空港や外航船が利用する港湾は、国際条約（ICAO 条約、SOLAS 条約）等に対応した対策の導入を図り、国際的な要請に対応し、世界中の人々が交流する国際的な拠点を実現していく。

◆『美しさと自然豊かな文化の香りがする地域づくり』

①明瞭な四季や変化に富んだ地形がもたらす美しく豊かな自然との共生

【地域の将来の姿】

北陸の魅力である、雪や豊かな水と緑、日本アルプスと日本海に挟まれた変化に富んだ地形、自然環境などを保全・継承するとともに、水辺や緑の再生等により、自然を暮らしや都市空間に取り入れることで、快適でうるおいに富んだ北陸を実現する。

②歴史・文化を活かした個性的で魅力ある空間の創出

【地域の将来の姿】

地域が一体となって、北陸の各地域が有するまち並みや、歴史・文化資源を保全しつつ、都市機能と調和のとれた現代的な再生と活用を図り、個性的で魅力ある空間を創出する。

③地球環境への負荷の軽減と生活環境の改善

【地域の将来の姿】

それぞれの地域で環境負荷を軽減するしくみづくりや行動に取り組み、北陸全体で連携していくことで、環境と成長のバランスの取れた北陸を実現する。

また、道路環境の改良や渋滞の解消、海上輸送や公共交通機関の利用しやすさを高めるなどにより、自動車等によって生じる騒音や排気ガス等を抑制し、地球環境への負荷を軽減するとともに、静かで快適な生活環境を実現する。

◆『多様な主体との連携・協働による地域づくり』

施策・事業の推進にあたっては、地域住民やNPO等、多様な主体の参加や連携・協働を図り、また積極的かつ分かりやすい広報や情報提供等を進め、地域のニーズの把握等に努める。

①地域住民やNPO等と連携・協働し、魅力ある地域づくりを進める。

まちづくりや「みなと」空間の形成・有効活用の推進等地域づくりにおいて、NPO等の行う地域振興活動と連携・支援するなど、地域で活動している多様な主体と連携・協働を図る。

また、住民のボランティア団体による道路・河川の清掃活動や、住民、地元企業、自治体等が一体となった公園の計画・整備・管理など、地域の多様な主体の参加・連携による地域づくり活動を推進する。

②構想段階も含め様々な段階で地域住民等の参加を得て、地域のニーズを反映した社会資本整備を進める。

事業の計画段階よりも早い構想段階から情報を公開し、住民等の多様な意見や提案を十分に把握し、意思形成を図りながら計画の提案や社会資本の整備を進める。

また、道路利用者である国民の「満足度」を定期的に調査しその結果を政策に活かすなど、政策のマネジメントサイクルを活用し利用者の立場に立った行政を進める。

③あらゆる機会を捉え、記者発表やホームページ等により情報を積極的かつ分かりやすく提供する。

行政の持つ情報、考え方等を広く国民に知ってもらい、国民の意見・提案を把握することにより、双方向のコミュニケーションを進め、行政と地域社会、国民との良好な関係の構築を進める。

情報の提供にあたっては、迅速さ、分かりやすさ、情報の入手しやすさに配慮するとともに、近年のあふれる情報の中で興味をもたれるように工夫する。

④総合学習も含め、幅広い年齢層に対する体験型の説明会、見学会等を積極的に実施し、地域住民の社会資本への理解の増進を図る。

各学校との連携による社会資本を学習素材とした「総合学習」の支援や、一般の方々からの要請に応じ講師を派遣し北陸の地域づくりなど幅広く分かりやすく説明する「出前講座」の開催、暮らしを支えている社会資本を紹介しそれらについての理解を深めてもらう「社会資本見学ガイド」の作成を行う。

今後も地域住民等の意見や提案、ニーズへの的確な対応に留意しつつ社会資本への理解を深めてもらうための活動を積極的に推進する。

⑤既存の社会資本の有効活用や、地域特性に応じた柔軟な構造・手法を適用した社会資本の整備を図る。

既存の社会資本を有効に活用することに配慮するとともに、全国一律な基準にとらわれない地域特性に応じた柔軟な構造・手法を適用するローカルルールを導入により、整備効果の早期発現、整備コストの縮減を図りつつ、地域になじむ社会資本の整備を推進する。

また、整備にあたっては、地方公共団体との定期的な会議を開催し、連絡調整を十分図る。